

北斗会看護専門学校

2023年度 自己評価報告書

2024年2月自己評価実施

2024年3月7日現在

# 2023 年度 学校評価

## 基準1 教育理念・目的・育成人材像

本校は、建学の精神となる社会医療法人北斗会の医療憲章を基盤として、「看取りの『学・術・道』を教育理念とし、専門職業人としての自己の身体的・精神的・社会的成長をめざして、あらゆることに関心をもち、主体的に考え、行動し、判断できる能力がもてること。また、他者への思いやりのある人間関係が築けること」を教育理念としている。しかし、自己評価では、「教育理念・目的・目標は学生に浸透しているか」については昨年度より低下している。これは新人教員が加わった運営となり、授業や学生への介入の場面を教材化し、教育理念につながる教育実践を行う事が難しいためと思われる。しかし、全ての教職員に共通する課題であり、様々な体験場面をリフレクション、共有することで教育理念に基づいた学生の学びを深化できるよう取り組んでいきたい。

45 回生卒業時アンケートでは「教育目的、教育目標達成に向けた支援」について満足とまあ満足合わせて 92.2%、前年度も 95%と大変高く、学生に浸透していると考え。新カリキュラム 1 年目の 46 回生の 1 年終了時のアンケートでも「1 年間学んできた中で、教育理念、教育目的に共感する」が「とてもあてはまる」「あてはまる」とした学生が 95%と非常に高く、教員は様々な場面で意図的に介入していたと思われる。

45 回生の卒業前アンケートでは、学べたことの中に「思いやり」や「看護師としての姿勢」とする意見が多かった。本校の教育理念、目的を目指して各科目の学習が行われていることを引き続き意識し、教育にあたりたい。

次年度は 1 年生、2 年生ともに、新カリキュラムの運営となる。各科目の授業計画の立案と今年度実施した授業の評価を活かしてカリキュラムの進度の調整、さらに教員全体で情報共有し、より発展させ、教育内容を充実させていきたい。

2023 年度 45 回生の卒業前アンケートでは「本校入学を決めた理由と入学後の満足度」に対して「満足」「まあ満足」合わせて 89.5% (n 38/40 名)であった。そのなかでも、教職員に対する支援体制としたソフト面については「満足」「まあ満足」合わせて 100%の満足度を示していた。新型コロナウイルス感染症に伴う制限された学習環境の中であったが、学生は意欲的に学び取ろうとしていた。次年度も引き続き、教育目的・目標を目指した取り組み、授業を展開できるように努めたい。

また、学校の将来構想として中期的計画「定員 40 名を満たした魅力ある学校づくり」をあげ、数値目標や対策を計画にするなど、教職員全体で運営に取り組んでいる。今年度は 5 か年計画の 5 年目となる。5 年間の取り組みで全体に浸透したといえる。次年度も引き続き、新たな展望を持って取り組めるよう教職員全体で取り組んでいきたい。

## 基準2 学校運営

2023年度は「国家試験合格率 100%」「受験者数 倍率 1.5 倍以上」「大阪府への就職率 80%以上」「希望者就職 100%」を数値目標として取り組んだ。結果、2022年度卒業生は、第112回看護師国家試験、全国平均合格率 90.8%、本校合格率 100%。全国平均以上の合格率であった。難化する国家試験ではあるが、第113回看護師国家試験については、結果を待ちたい。2024年度入学試験は「受験者倍率 1.23 倍」「大阪府への就職率」は 30 名 75%「希望者就職 100%」。准看護師課程の学校が閉校する中で数値目標以上の学生確保の難しさが浮き彫りになった。今後も学生の動向を把握し取り組みたい。

2023年度はできる限り学校行事を従来に近づける目標をあげ、対面での「関西看護学生看護研究発表会」への参加、4年ぶりとなる「観劇」、「学校祭」の対面参加となる。また、「送別会」「新入生歓迎会」「邑久光明園・長嶋愛生園訪問」など多くの対面での学びと交流の機会を持つことができた。今後も学生間の交流や学びの場を持てるよう計画していきたい。

## 基準3 教育活動

教育方法についてはすべての項目で高い評価である。様々な場面で教員同士の意見交換や、授業内容の創意工夫、シラバスの検討を行っている。

今年度は新人教員の入職もあり、次年度は育成に向けた取り組み、希望に応じた研修や講演会など自己研鑽できる機会を確保したい。教員間の意見交換の場を増やすなど互いの学びの共有を通して、専門性の向上、資質向上に向けて取り組む。今後も教職員は流動的である。一定数の確保と、教育目的をねらった教育の維持は必要である。より一層の教員間の授業計画や学生をどう育てるかなどの意見交換や連携ができるようコミュニケーションを図りたい。

教育効果を高めるために、本校では入学前より「社会人基礎力」の自己評価を行い、卒業までの間、必要時自己評価を行っている。これにより、1年生46回生のアンケートからは「社会人基礎力を自己評価したことは次の取り組みに向けて活用できた」は「とてもあてはまる」と「あてはまる」を合わせて 87.5%と多くの学生が意識して自己成長していることがわかる。ビジョンを持った学習と看護の質を高めるために、引き続き「社会人基礎力」を高める教育活動に活かしていきたい。

## 基準4 学 習 効 果

就職試験は、年々早くなっている。就職への準備としてキャリアガイダンスの開催を、45回生は1回目を1年次12月に行い、2回目は3月に行なった。学生のニーズは高く、就職活動に向けて真剣に準備を進めている。個別に相談がある学生には個別に対応し、面接、小論文、書類について、病院の特徴、自分が目指す看護師像についてなどアドバイスしている。希望者就職は100%となっている。1年生の3月に就職に向けたキャリアガイダンスに今年度の新しい取り組みとして、従来のガイダンスに加え、就職関連情報業者による就職への計画、情報収集、マナーなどのガイダンスを加えた。学生からの質問もみられ、今後も支援の一つとしていきたい。

学習については、46回生1年次の学習に向けた取り組みとして、入学前課題への取り組み、入学前ガイダンスでの学習の重要性と学習の仕方の説明、入学後すぐに基礎テストの実施、単位修得に向けた学習支援、模擬試験の実施、毎日の国家試験問題への取り組みなど行った。入学前のレディネスは様々で学習姿勢が身につけていない学生もあり、個別または小グループで学習指導を行っている。1年生46回生の1年次のアンケートでは、「向上心を持って、学習に積極的に参加し、学びが深まった」については「とてもあてはまる」と「あてはまる」を合わせて90%だった。多くの学生が積極的に学んだとする一方で、1年の学習全般に授業はおおむね理解できた」には「あてはまらない」「あまりあてはまらない」とする学生が25%と1/4を占め、努力はしたが、理解できなかったとする学生がいる。これらのことを鑑み、教育方法の工夫、学習環境の調整が必要と考える。

小グループによる学生同士の学び合いも行えている。学習の必要性を感じると自ら学習に取り組み、分かることが楽しいと感じる学生もいる。学ぶことの意味付けをすることで、学びたいと思えるように成長を待ち、伴奏することが必要と考える。次年度も入学時より学習教材を準備し、学習の機会を作っていきたい。

本校では看護師国家試験の合格率は100%を目指している。第113回看護師国家試験は45回生は2年次からは学生自らが立ち上げた「寺子屋」とする学生による学習会と学習支援が必要な対象への教員による支援、年9回の模擬試験の実施、参考書や資料の提示、希望者への業者による学習会参加の紹介など学生に応じて実施した。学生のモチベーションは高まり学習効果は高かった。

今年度までは新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、学生への窓口を決め、関係性を構築することをねらいクラス別の担任制としていた。今年度は感染症に伴う学生の行動制限や必要以上の接触の制限はなく、学習は行えた。

次年度からは、クラス別の「担任制」から、コロナ前に行われていた全ての学生を複数の教員で関わり育てる複数名の教員で学生に関わる「学生担当制」とする。これにより、学生にとっては相談の窓口が増える。教員にとっても多角的に学生を理解することができ、教育に対する意見交換の機会が増えることでそれぞれの教員の教育力の向上にもつながる。学

生の背景を含めて、学生指導することに向ける教員のエネルギーは相当なものであるが、一人の負担とすることなく、チームで取り組むことで教育効果を高めることができると考える。

卒業生が学校を訪れる機会は個別にはよく見られ、卒後の近状報告を聞くことも多い。しかし、「卒業生の実態を調査等で把握」については行えていない。卒業生の就職後の不安を軽減させ、定着率を高め、安定させることは本校学生の就職の門を広げることにつながる。卒後の状況把握を検討していきたい。

## 基準5 学 生 支 援

2024年度の希望者就職は100%、大阪府下の就職30名75%と目標数値には届かなかった。学生の居住地域が兵庫県、またはそれに近い、自分が目指したい看護を行うための施設が府外であったなど積極的な理由である。

学生から就職活動の意向があった場合、「就職活動願い」を提出させ、就職活動に対しての責任感を持たせると共に、教員間の学生の就職活動の情報共有を図っている。

ここ数年、就職した病院からの学校訪問が増えた。病院側の看護師確保の動きが高まっていると感じる。本校学生は、総合病院、特定機能病院など様々な施設への就職となっている。しかし、大規模病院、国公立病院にみられる年齢制限を考えると本校の学生が就職できる病院施設が限られてくる。学生の希望と就職先の病院施設とどのようにマッチングさせていくか、双方の情報を共有し、就職に関する相談に応じられるよう努めたい。

今度新設された「キャリアマネジメント」では看護専門職としての意味付けとビジョンをもって学習や就職活動に臨めるよう支援するとともに「キャリアデザインサポート（キャリアサポ）」として全体へのキャリアガイダンスと個別相談を実施している。

2023年度の退学者留年者はいない。目標数値としては充実した教育による退学者0、留年者0を目指している。学校生活を送る中で不安を示す学生についてはカウンセラーの役割を果たす法人内の臨床心理士へ相談ができるように案内している。学校外部のスクールカウンセラーの位置づけで、必要時は学校と連携し、学生支援にあたっている。本年度も数名の学生がサポートを受け、安心感を得て学校生活を継続できている。

経済的支援では、高等教育修学支援新制度の対象校の指定を受け、経済的支援の選択肢が増え、支援を受けられた学生もいる。卒業前アンケートの「奨学金などの経済的支援」では支援を受けていないためわからないとする学生を除くと97.3%の学生が満足またはまあ満足であり、経済的支援についての満足度が高く「個人の事情に合わせて手続きしてくれたので心強かった」という意見があがっている。本校学生は親としての役割を持ちながら学ぶ学生が多いため、経済的支援が必要な学生には、今後も支援が行き届くよう体制を整えていきたい。また、予測されなかった事情による学生納付金の納入困難には事情を把握した後に対

応している。これにより、学習意欲の高い学生の学習環境を整えることができると思う。

同窓会の活動内容については卒業時にインフォメーションしており、本校ホームページでもお知らせのコーナーを設けており、活動内容の確認ができる。しかし、新型コロナウイルスの影響もあり、活動自体がなされていなかったため、今後は同窓会活動の報告について、ホームページが活用されることを望む。ホームページの案内が入学式、卒業式への参列、国家試験前の受験生への激励など、在校生に対するつながりも持てるものとなると思う。

## 基準6 教育環境

他の項目に比べ、教育環境に対する評価ポイントは低い。

施設、設備等については、図書室、実習室などの整備の評価が低い。書籍については定められた8000冊以上の8529冊が準備されているが、不十分のポイントが高い。今年度、希望図書について必要と思われる図書の意見を聞き、図書の追加を行ったが、いまだ不十分とする意見が多い。次年度も学生、教職員の希望図書を聞き、追加していきたい。それと同時に図書の整理、紛失の防止など図書管理を適切に行いたい。

ここ数年の学生のアンケートからはハード面についての満足度が低い。「トイレの洋式化」「椅子と机の不良」「図書の充実」など設備、物品の要望があった。法人へ報告を行い各階に洋式トイレの設置が予定されることとなったが今年度はその実施に至っていない。今後も法人へ働きかけたい。また、大型バイクの駐輪のしづらさについては多少のスペースが確保され、駐輪はしやすくなった。駐輪場の屋根については本来設置されていた屋根が大型台風により破損されたままとなっているため、法人へ働きかけをしたい。

## 基準7 学生の募集と受入れ

「学生の募集と受入れ」については5月と9月に大阪府下、京都、奈良の准看護学校3校、静岡1校、衛生看護科2校へ訪問した。全ての学校が好意的であった。今年度は、高等学校衛生看護科からの受験者が7名と多かった。次年度も同数程度と思われる。

今年度の受験生は48名、合格者40名、うち辞退者1名。2025年度入学者39名の予定。40名の合格者のところ辞退者が出たため、定員を満たすことができなかった。

受験者倍率1.23倍。オープンキャンパスの参加者は前年度より増加した。オープンキャンパスでは在校生との交流が好評であり、在学生の学ぶ意欲や日ごろの学校生活と愛校心に触れることで、本校への入学動機を高められると考えている。そういった中での受験者の減少は、興味は示しているが、受験につながらなかった結果として、次年度の動向を見極め、積極的に受験者獲得に向けて働きかけたい。今後も受験があった学校への訪問を行い、学校

を知っていただくことに努めたい。専門学校差別化がなされているとされる1.3倍をねらいたいところであるが、大阪府下でも准看護学校の閉校が相次ぐことを鑑み、受験者倍率1.25倍以上を目指すことをあげる。

#### 基準8 法令等の遵守

法令関係については本校規定があり、この規定にのっとり対応できるようにしている。対応が必要となった事例がある場合は、法人と連携し、対応にあたる体制がある。

学校評価については、自己評価に加え、学校関係者評価委員会を立ち上げている。外部からの評価を受けることで貴重なご意見を頂き、学校運営改善に取り組む機会となっている。また、学校を知ってもらえる機会としては大変貴重な機会である。自己評価、学校関係者評価の結果についてはホームページに記載し、社会に公表している。これにより入学希望者が学校の運営を知り、受験志望に結びつくことにも役立てたい。

#### 基準9 社会貢献・地域貢献

学校施設利用について、法人職員の研修、カンファレンス、地域包括支援センター会議などに利用されている。卒業生からの希望があれば、実習室、講堂、教室など利用されている。今後も希望があれば外部機関や地域の方々に対して学校施設の利用を進めたい。

## 【改善策】

1. 次年度は1年生、2年生ともに新カリキュラムで運営されることとなる。「思いやりと感性あふれる看護師を育成する」教育目的を達成できるよう教職員全体で取り組む。学生との関わりを中心とする学生担当教員のコミュニケーションを充実させ、役割体制の充実、教育力の向上を図る。
  
2. 2024年度重点目標は前年度に引き続き「全ての学生と教員が看護は楽しいとイキイキする学びの場～看護専門職としての学生一人一人を大切にした教育～」を挙げて取り組む。
  
3. 2023年度は中期目標5か年計画の5年目であった。「定員40名を満たした魅力ある学校づくり」の目標は達成したものの、准看護学校の閉校や2年課程の閉校は続き、全国的な学生充足率の低下が進んでいる中、教育の質の確保とともに、学生数を確保することは課題である。数値目標として、より積極的な働きかけが必要と考える。
  - 1) 受験者倍率1.25倍を目指す
    - ・補欠合格者、三次入学試験を設定し、入学希望者を確保する
    - ・オープンキャンパスの情報発信
  
  - 2) 学校訪問の拡充
    - ・法人と協力し学生及び将来病院職員となる奨学生のアナウンスの機会を増やす
    - ・入学生の出身校への訪問
    - ・学生の様子を伝える機会を増やす
  
4. キャリア教育の充実
  - 1) 希望者就職100%
  - 2) 大阪府内の就職率80%
  - 3) キャリアガイダンスの充実とキャリアデザインサポート（キャリアサポ）の充実
  - 4) 看護師国家試験の合格率100%

2024年3月7日現在  
記載責任者 石川 美佐子